

平成26年1月1日

第77号

鵜戸

謹賀新年



887-0101
宮崎県日南市宮浦3232番地
0987-29-1001 FAX0987-29-1003
鵜戸神宮ホームページ
<http://www.udojingu.com/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

謹んで新春のお慶びを 申し上げます



宮司 本部 雅裕

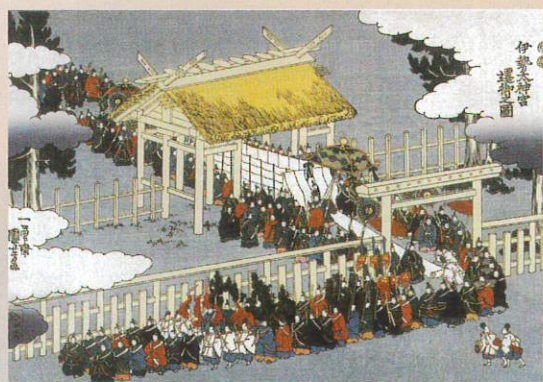
年の始めにあたり、皇室の弥栄を心からお祈り申し上げます。

また、氏子の皆さまをはじめ、全国各地から当神宮に崇敬の誠を捧げていただいてをります崇敬者の方々には、お健やかに新春をお迎へのこととお慶び申し上げます。

伊勢の神宮では、昨年十月二日に皇大神宮が、五日には豊受大神宮の遷御の儀が、めでたく御斎行相成りました。皆さまとともにお祝ひ申し上げたいと存じます。二十年に一度のこの式年遷宮は、持統天皇の御代に始まるとされ、以来一三三三年が経た平成二十五年に第六十二回の遷宮が行はれたのであります。御造営には八年がかけられ、両正宮をはじめとする諸殿舎のすべてや、神々に捧げられる装束や神宝までもが新調さ

れるものです。

新しい御殿、新しい神宝をしつらへ、そこに皇祖の



伊勢太神宮遷御図
(神宮徴古館所蔵)

神霊をお迎へすることにより、大御神様のさらなる廣大無辺の御神慮をいただかうとしてきた、永年にわたる日本人の敬神尊皇の営みが、ここに窺へます。

伊勢の式年遷宮は、大御神さまが二十年に一度の遷宮により新たに若返りをされると

ともに、新しい御神威を垂れ給ひ、我が日本が、常に「常若の国」として瑞々しく、力強く生成発展していくようお導きいただく国家の重儀といへます。

さて、一昨年は『古事記』が和銅五年(西暦七二二)に編纂されて二三〇〇年を迎へたことから、日向の国では官民が智恵をしぼった、それぞれの催しが行はれております。参拝いただく方々も、このことによりさらに神代

の神々に興味をもつてお参りいただくやうになったことは有難いことであります。さらに平成三十二年に迎へます『日本書紀』編纂二二〇〇年まで、鶺鴒神宮の御祭神、鶺鴒草葺不合尊はもちろん、日向の国の神々の残された御事績と聖蹟とを広く周知してゆくことも、大事なことだと考へてみます。

そこで、「記紀」にある鶺鴒草葺不合尊のご生誕に関する描写とはひと味違ふ、さらに詳しい文章が残っておりますのでここに紹介致します。

それは、天保二年(西暦一八三二)に記された『鶺鴒縁起』といふ古文書です。

抑モ大日本国日向の国吹井之浦ニツ童穴有。名テ鶺鴒之窟ス。……

(豊玉姫は) 此内之姿ニ非ズ、童宮ニテハ言ニ及バズ、美人成シガ今ハ本躰之大蛇也。長十六丈計ナリ。大蛇ニテ八尋之鰐ニ打乗リテ小兒ニ乳ヲ与エ、居玉ケリ。尊即チ見給テ驚敷思食テ、豊玉姫ハ耻ケ敷ト思居、童宮へ歸去ムトシ給ケル。尊様々留玉エ共、可ハズ。海中ニ帰賜ムトテ左ノ乳房ヲ引切テ、彼ノ鶺鴒ノ窟ノ腹ニ打付テ販リ給ケル。乳房石ト申ス是也。……

其後童宮ヨリ海神ノ大郎女玉依姫遣サレ、件ノ

小児養育シ賜ケリ。……

〔宮崎県史〕神話・伝承資料より引用 万葉仮名を片仮名に、また一部、書き下しに変更し、句読点を加へる)

このやうに、記紀編纂から二二〇〇余年が経過した江戸時代には、尊のご誕生譚はより現実味を帯びて語られてゐます。

それは、豊玉姫は「美人」(江戸時代にはすでに美人と言つたといふ)であり、姫は「大蛇の姿で、大きな鰐に乗つて御児に乳を与へてをられ」たと言ひます。本体の大蛇の長さは十六丈といひますから、五十二メートル余にも及びます。さらにその姿を彦火々出見尊に見られた姫は、童宮に帰らうとされますが、尊はこのまま引き留まるよう、さまざま手を尽くしてをられます。ここ

のところの夫婦の妙は、実に泣かせます。神々の御事績が、今の現に、さらにあるがままに語られる日向の国。神代の時代から人皇第一代神武天皇へとつなぎ、その大事な接点であられる鶺鴒草葺不合尊を祀る霊地・鶺鴒神宮へ、今年もどうぞご参拝下さい。皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

各種祭典

新嘗祭(新穀感謝祭)

十一月二十三日、今年収穫された新穀や生産物を神々に捧げ、神々のご加護によつて生産出来たことを喜び、産物を得られたことに感謝する祭典が斎行された。

鵜戸小中学校三・四年生の生徒七名が昭和五十年より受け継がれてきた子供神楽を奏舞し、華やかな祭典となった。



宮司祝詞奏上



- 神の舞 高橋祐生
- 献穀の舞 村中郁斗
- 根木天佑
- えびすの舞 湯浅好海
- 高嶺綺伽
- 鈴の舞 中野愛梨
- 新坂樹莉

明治祭・秋の縁日大祭 誕生感謝祭・舞楽面奉納奉告祭

十一月三日、午前十時三十分より斎行。

今回は、延岡市在住の能面師弓削孝氏に「蘭陵王面」・「還城楽面」を奉納頂き、奉祝行事として舞楽「蘭陵王」・「豊栄の舞」・「鵜戸さん獅子舞」が奏舞された。



還城楽面



蘭陵王面



夏越の大祓式

六月三十日午後三時より大祓式「夏越の大祓」を斎行。

これは日常生活のなかで知らずにふりかかった大小の災難や穢れ(気枯れ)を祓ひ清め、明るく平穏な日々を送るための大事な年中行事のひとつである。

敬神婦人会 奉仕活動紹介

十一月より十二月まで、敬神婦人会会員によるご神符準備作業が行はれた。

崇敬者のみなさまにとつて、この年が良き年でありますやうひとつひとつ真心込めて準備。多くの会員参加のもと、賑やかな奉仕作業となった。

敬神婦人会 研修旅行

十一月二十日、参加者二六名で高千穂へ研修旅行を行った。

同じ県内でも温暖な日南市とは違ひ、冬支度の整った県北への旅行は寒さが身にしみだが、初めて訪れる方や、四十年前の新婚旅行以来の参加者もをり、有意義な研修となった。



七五三詣り



十一月の境内は、かはいく着飾つた参拝者で賑はつた。これまでの発育を感謝し、これからの健やかなる成長を祈念してゐた。

海上自衛隊掃海隊 航海安全参拝

十一月十六日、海上自衛隊掃海隊が油津港に寄港。群司令以下が参拝され、隊員の健康・任務成功を祈念した。



海上自衛隊掃海隊群司令 海将補 岡浩氏(写真右)

山口貞照刀自命 慰霊碑建立清祓祭

九月二十八日、特別崇敬者である山口神直様の亡き妻君、山口貞照刀自命の慰霊碑を、別当墓地横に建立し、宮司以下祭員五名で清祓祭を斎行した。当日は、多数の大峰蛇之倉七尾山の崇敬者も参集し、慰霊の誠を捧げた。



奉納

- 寺原聖山氏 掛軸 一幅
- 津田忠俊氏 太刀 四振
- 槍 二本
- 弓削孝氏
- 蘭陵王面 一面
- 還城楽面 一面
- 河野昭和氏 椅子カバ

辞令

- 巫女 松本しおり 願いによりその職を解く (三月三十一日)
- 出仕 草場 裕之
- 出仕 安藤祐一郎 権禰宜に任ずる (四月一日)
- 巫女 徳地 亜紀 斎女を命ずる (七月一日)
- 権禰宜 草場 裕之 願いにより本職を免ずる (十月三十一日)
- (佐賀県 佐嘉神社に転任) 巫女 佐伯 育子 願いによりその職を解く (十一月三十日)



波切神社参道補修

今年の干支は「午」で、題字は「常若の國」になつた。この絵馬は楼門上部中央に設置され、参拝者は絵馬の下を通り、御本殿へと足を進める。大きさは一八〇×一二〇cm。絵馬の掛け替へは、十二月二十七日煤払祭に併せて行ひ、翌年の十二月まで設置してをりますのでご参拝の節にはどうぞご覧下さい。

午年絵馬作成

十二月八日、責任役員と氏子総代、地元漁師、職員により、波切神社参道の補修工事が行はれた。これまででは、悪路のため参拝が困難であったが、これで美しく整備され通りやすくなつた。

命名

宮崎市 一井 馨太 様
 (平成二十四年十二月十七日生)
 宮崎市 長友 来愛 様
 (八月二十六日生)
 宮崎市 武藤 智大 様
 (九月十八日生)

ご結婚おめでたう
 ございます

群馬県 小野 丞 様
 群馬県 福井 宏美 様
 (三月二十三日)
 福岡県 杉下 孝太郎 様
 朋美 様
 宮崎県 吉田 智浩 様
 亜衣 様
 (三月三十一日に、第二十七回シャンシャン馬道中再現に参加され、鶉戸神宮で新婚夫婦正式参拝を行つた)
 宮崎県 細田 聡 様
 吉田 彩子 様
 (七月十三日)

東京都

鴨川 雅俊 様
 今宿 麻美 様
 (十月二日)

宮崎県

下之門 剛 様
 田中 亜由美 様
 (十月五日)

長崎県

藤江 直樹 様
 長友 麻依子 様
 (十一月三日)

宮崎県

堀 宏佑 様
 永松 藍美 様
 (十二月十六日)

大阪府

垂水 宏太 様
 山岡 蘭 様
 (十一月二十四日)

宮崎県

下田 一彦 様
 藤山 知世 様
 (十二月二日)



編集後記

○社報七十七号をお届けします。
 ○皆様に、清々しく初詣のお参りをして頂きたく、参道の玉垣改修工事と、運玉授与所新設工事が完了しました。
 ○表紙は社務所前のツワフキの写真です。春は食用に、冬には日南市内に咲き誇り、花を愛でながらマラソン大会も開催され、一年を通して私たちを楽しませてくれます。
 ○毎年、日南市でキャンプを行ひ、鶉戸神宮に必勝祈願に来宮される広島東洋カープが、一九九七年以来十六年ぶりのAクラスで、クライマックスシリーズに今回初出場を果たしました。今期、さらなる活躍を。
 ○皆様の益々のご多幸を、鶉戸の宮居よりご祈念申し上げます。(中原)

